

## 自然資源を活用した地方での子育て支援と、持続可能な地域づくりについて

遠藤 小野花

過疎化や少子化が進む地方においては、地域において孤立しがちな子育て家庭を支える基盤の再構築が求められている。本論文は、自然資源を活用した「体験型プログラム」を地方の子育て支援に取り入れることで、持続可能な地域づくりと子育て支援の両立が実現することを立証することを目的とする。

第1章では、子育て支援の概念や発達段階に応じた子育てを文献調査から考察し、地域の子育て力を高めることの必要性を述べるとともに、地域での子育てとその支援の課題を明らかにした。なお、本稿では「連携」と「担い手育成体制の構築」の二つの課題に焦点を当てている。

第2章では、「自然資源の活用」と「子育て」の相互性を明らかにするため、二点が相互に作用していると推察するコミュニティ活動「山形県酒田市日向コミュニティ振興会 日向ぼっこスクール」と、地域の自然資源を活用し、持続可能な地域づくりや地域の人材育成に取り組む「鳥海山・飛島ジオパーク」の事例から検討を行った。これらの事例から、自然資源や地域文化等に詳しい地域の多様な人材との連携により地域資源の新しい価値が見出されることや、参加者が地域を知ることによって愛着を持ち担い手が育つこと等、自然資源活用と子育ての相互性と、子育て支援の課題を克服する効果を考察し、関係性を示す構造図としてまとめた。

第3章では、自然資源を活用した子育てに関する意識調査として、日向ぼっこスクール事業の一つである「ホテル鑑賞会」に参加した親子・住民・学生へのアンケート結果から考察を行った。ここでは調査から得た実際のニーズ等を前章で示した図に反映し、新たな構造図を示している。

第4章では、前章までをもとに、自然資源を活用した「体験型プログラム」の子育て事業実施における提案をまとめ、第5章では、筆者が4年間を通して携わった学生活動団体 **Praxis** (プラクシス) における地域活動の経験も踏まえた考察と今後の課題をまとめている。